

第3回京丹後市教育振興計画策定委員会会議録

日時：令和6年11月21日（木）10時00分～11時50分

場所：京丹後市役所大宮庁舎 4階 第2・3会議室

出席者 和田省委員長、赤松副委員長、竺沙顧問、中川顧問、櫛田委員、
坪倉委員、中村委員、藤井委員、後川委員、味田委員、和田直委員、
小谷委員、野村委員、石田委員、藤原委員、岡田委員（敬称略）

欠席者 林顧問、板倉委員、奥田委員、藤田委員（敬称略）

オブザーバー 丹後教育局 北尾指導主事

事務局 松本教育長、川村教育次長、久保理事兼総括指導主事、
上羽理事兼学校教育課長、松本生涯学習課長、
下戸スポーツ推進室長、村田文化財保存活用課長
西村教育総務課長、松下教育総務課主任、西垣教育総務課主事

議 事

1. 開会あいさつ
2. 第2回策定委員会を受けて 資料1
3. 次期計画の素案について 資料2
(意見交換)
4. その他
5. 閉会あいさつ

【議事】

1. 開会あいさつ

〈教育総務課長〉

それでは定刻となりましたので、始めさせていただきたいと思います。

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

私は、本日の会議の司会進行を務めます、京丹後市教育委員会事務局 教育総務課の西村でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、ただいまから第3回京丹後市教育振興計画策定委員会を開会させていただきます。初めに、委員長よりご挨拶を申し上げます。

〈委員長〉

皆さん、おはようございます。

今朝は早朝から小春日和でいい天気になりました。そんな中、早々より、本会議にご参加いただきまして、ありがとうございます。

前回は10月16日に第2回目のこの会議をお世話になりました。教育委員会の事務局から、原案をご提示いただいて、委員さん方にいろいろなご意見を出していただいて、いろ

いろ深まりも出てきた中で、整理をしていただきながら今日の会議につなげていくというようなことで散会をしていただきました。

教育振興計画につきましては、5年から10年をスパンにしまして、将来の教育を、実態に基づいてどのように考えていくのかということ、具体的に提示をしていくことが役割かなというように考えております。

学校教育にしましても、地域の教育にしましても、それぞれの実態に基づくとということが、まず一番スタートの起点になるかなというように思います。

過日、網野学園で市の保幼小中一貫教育の、授業研究の授業を参観する機会に恵まれて見て参りましたが、低学年の子どもたちが、当たり前タブレットを使って授業をしていくというようなことが定着しかかっているということを実感させていただいて、改めて教育の手法というものが変わってきていることを感じました。

また、私は自治会の活動にも若干関わらせていただいておりますけれども、市の施策として、行政区がそのまま人口減の中では上手く機能しないだろうというようなことで、役員のなり手も非常に少なくなっている、或いは地域への所属意識もだんだん薄れてきている等々を踏まえたときに、もっと広域化をしながら進めていかないと機能しないだろうというようなことで、新しいコミュニティづくり、いわゆる新コミュの取組を5年前から始めていらっしゃいます。

令和7年度からは、市の全面展開でやっていくというようなことも伺っておりますが、どちらにしましてもその方向性を、学校教育にしても社会教育、生涯学習教育についても、こちらのほうが何か展望的なものを示していかないと、どこに進んでいったらよいのかというようなことが分からなくなってしまうので、そのことを指針として提示していくのが、この教育振興計画かなと思っております。

今日は、事務局から出していただいた、とりわけ6つのプロジェクトの中身について、具体的の方策として出していただく内容があるかと思っておりますので、是非とも十分に意見交換をしていただいて、この会議の中で交流しながら、一定の確認を得て終われるような会議にできたらありがたいと思っておりますので、どうかよろしく願いして、開会の挨拶とさせていただきます。

今日はよろしく願いいたします。

<教育総務課長>

ありがとうございます。次に、教育長よりご挨拶いただきたいと思っております。

<教育長>

皆さん、改めましておはようございます。

本日は第3回の京丹後市教育振興計画策定委員会を開催しましたところ、委員の皆さんにおかれましては本当にお忙しい中、また、学期末の近いこの時期で学校関係の先生方におかれましてもご出席いただきまして本当にありがとうございます。

また、京都教育大学副学長の竺沙顧問、EdLog代表取締役社長の中川顧問におかれ

ましては、本日もお忙しい中オンラインでのご参加本当にありがとうございます。

さて、前回第2回目の会議では、新たな教育振興計画の核となる部分についての論議をいただきました。いただいた貴重なご意見については、この後示させていただくもので、しっかりと内部委員会の中で検討させていただきまして、可能な限り修正し、さらには新たな文言として加えさせていただいたと考えているところです。

そして、こうしたこれまでの協議を踏まえまして、本日の第3回目の会議では、いよいよ計画案の全体像を示させていただくこととしています。

ただ、委員の皆様、今回の会議の前に誤解を恐れずお伝えしたいのは、この新たな教育振興計画の案は、学校教育だけでなく、もちろん生涯学習、生涯スポーツの視点等からも積極的に推進する施策と、そのポイント等について示させていただいてはいますけれども、この計画の基本理念の冒頭で「世界を舞台に活躍することができるとともに、地域に還ったり、域外から地域に関わったりすることを通じて、未来を創っていく人材を育成します。」という明確な目指す人材像を示した上で、それに対応した京丹後市が目指す教育として「グローバルな視野をもち、地域や社会とつながり、国際的なつながりをもつことができる力を育む教育」「郷土への愛着と誇りをもち、幸福な未来を切り拓くため、新しい価値を創り出す力を育む教育」というものを掲げておりますので、この計画案の中核部分は、学校教育を中心に構成しているということです。

ですから、そうしたことも踏まえていただきまして、本日の趣旨等も押さえていただきながら、各分野からの活発なご意見がいただければありがたいというふうに存じます。

本日は短い時間ですけれども活発なご意見をお願いしまして、ご挨拶をさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

<教育総務課長>

それでは、議事を進めさせていただく前に、本日の会議資料を事前に配布させていただいておりますが、資料1、資料2について、差し替えをさせていただきたいと思ひます。

机上に配布させていただいておりますので、ご覧いただきたいと思います。

それでは、今後の進行につきましては、委員会設置要綱第6条により委員長が議長となるとなっておりますので、委員長にお世話になりたいと思ひます。

それでは、どうぞよろしくお願いたします。

<委員長>

それでは議事進行を仰せつかりましたので進めて参りたいと思ひます。

スムーズに進みますようによろしくお願をしたいと思います。

それでは、事務局から第2回の策定委員会を受けて課題等をまとめていただいたものが前提にありますので、それをまず言うていただいでから、プロジェクトの説明に入りたいと思ひます。

2. 第2回策定委員会を受けて 資料1

～事務局説明～

<委員長>

ありがとうございました。前回出されました意見のまとめを総括的にまとめていただきましたけれども、各プロジェクトの中で再度詳しく触れていただきながら説明をしていただくということになるのかなと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、プロジェクト1から6までございまして、少し長くなりますが、内容に関連性も出てくるかなと思ひますので一気に全てご説明をいただき、その後に全般的な質問等を受け付けながら進めて参りたいと思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

3. 次期計画の素案について 資料2

～事務局説明～

<委員長>

説明大変ご苦勞様でございました。それでは、協議、質問も含めまして確認に入りたいと思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひますが、意見をおっしゃっていただく際にはマイクを通しての発言をお願ひしたいと思ひますので、係の方が持って行かれるかと思ひますので、よろしくお願ひします。

それでは議論の進め方ですが、とりあえず全部説明をしていただきましたので、大きくは3つに分けたいと考えます。

1つは、1ページ目のところからの、前回一定議論をしていただいておりますが、趣旨の部分と、計画の位置付け、それから基本理念のところを一括りにしてその裏の体系ももう1回確認をしたいと思ひますので、新たな疑問等が出ましたら、ご質問でお願ひしたいと思ひます。

2つ目は、6つのプロジェクトの議論の進め方ですが、プロジェクト1・2・3は、主に学校教育に関連した内容かと思ひますので、1・2・3は一括して議論等をしていきたいと思ひます。4・5・6につきましては、それぞれ単独的に扱って深めたいと思ひますので、大まかにそのような進め方でいきたいと思ひますので、その辺りを見通し的に持っていただいて、関連付け的なところが出ましても対応よろしくお願ひをしたいと思ひます。

それでは1つ目、趣旨から理念までを見ていただいて、全体の中で修正点も若干ありましたが、何かございましたらお出しいただきたいと思ひます。いかがでしょうか。

<委員>

基本的なことだけ教えてください。計画の期間で、第3次京丹後市総合計画と京丹後市教育大綱の最後の年度が入っていませんが、これは何か意図があるわけですか。というのは、教育振興計画5年間になっていますが、それ以上に長い期間であれば次もまた同じようなものの下でつくるといふことになると思ひますけども、そこはどうですか。

<教育総務課長>

市の総合計画、教育大綱につきましては、令和7年度からの計画として、今策定を進められているところでございますので、策定期間につきましてまだ分からないといった状況でございます。

これが決まってくればここにも入れさせていただいて、内容につきましては参酌しながらつくっていくことにしておりますので、総合計画も大綱も今策定段階ですが、その辺も整合を図るということの中で調整をしながら進めているところでございます。

計画期間につきましては、これまで振興計画では10年間としておりましたが、時代の流れも早いといったようなことの中で、5年間としてこの計画についてはしていこうということ考えているところでございます。

その整合について、計画終期からまた作り直してとかいうような調整をしながら、また進めていくということになろうかと思えます。

<委員長>

よろしいでしょうか。ほかにもございますか。

<委員>

国の教育基本計画を見るとウェルビーイングが大きな柱として入ってきているけれども、ここにはウェルビーイングという言葉が1つも出てこないんですけど、何かウェルビーイングを含めない理由とかがあるのであればお聞かせいただきたいなというふうに思っております。

<教育総務課長>

国の振興基本計画なりにもそういった項目があるということでございます。

市のほうでは、特にその項目として掲げていることは今回しておりませんが、特に理由というところでは持ち合わせていないですが、計画の随所の中で、その国の振興計画の考え方も踏まえながらの記載をしているといったところでございます。

<委員>

これは意見としておきますけども、ウェルビーイングという言葉が入ってきたほうがよいのではないかと個人的には思っています。世界、グローバルというふうに出てきておりすごく素晴らしく思うし、目指す人材像も共感できますし、目指す教育というところも共感できるんですけど、グローバルを視野に入れるのであれば、ウェルビーイングというのはかなり世界的にも注目が集まっている項目であって、経営でもウェルビーイング経営が始まってきている中で、どんどん国の中でも進んでいくはずなので、このウェルビーイングの要素、またはウェルビーイングという言葉を入れるとか、そういったのは検討されたほうが、グローバルとの整合性が合っていくのではないかなというふうに思いますのでご検討いただけたらと思います。

<委員長>

ありがとうございます。今出ました点について、また事務局でご検討をお願いしたいと思います。ほかにございますか。

<委員>

私も目指す人材像ですとか、とても素晴らしいなと思って、聞かせていただきました。

2 ページ目、計画策定の趣旨のところですが、この趣旨はどういうことを書き込むかというところで、ここには結果として計画の位置付けの部分が詳しく書いてあるように見えます。ねらいや目的、今のウェルビーイングなどその辺りの、ねらいや目的みたいなものも趣旨のところにあるとよいのではないかなと思いました。

それから3 ページ目と4 ページ目、ページをめくるので分かりにくいのかも知れませんが、同じような言葉といますか項目がありますので、この辺りをもう少しまとめると見やすいのかなと思いました。

あと全体を通してですが、例えばDX（デジタルトランスフォーメーション）のように、言葉の後に括弧で説明してあるところがありますが、これが略の説明であったり、日本語訳であったり、言い換えであったりして、いずれにしても分かりにくいので、その辺の書きぶりについてご検討いただけたらというのと、細かいですが、プロジェクト1 の下の1 行目、高い教育水準の教が2 個あるとか、ほかにも誤字・脱字があるので、もう少し精査してから出していただけたらよかったかなと思います。

<委員長>

ありがとうございます。今細かい点にわたってのご指摘がございましたが、単純なミスも含めて、また訂正をお願いしたいと思えますし、特にコメントございますか。

<教育総務課長>

趣旨につきましては、法律上のことを中心に書かせていただいているところですが、いただいたご意見も踏まえて検討させていただけたらというふうに思っております。

<委員長>

よろしく願いいたします。ほかにございますか。

<委員>

2 ページに戻りますが、先ほどの教育大綱のところで、市長部局で策定されるということですが、この関係性といいますか私は勝手にこの大綱を踏まえて教育振興計画があるのかなというふうにとらえていたんですけども、その辺の関係性の整理と、できれば、策定中、協議中であったとしても、大綱の趣旨が我々に情報提供なり、踏まえた上でまた細部を検討するようなことができたらいかなというふうに思いました。

それから3ページですけれども、プロジェクト1で、グローバル、グローバル、グローバルとしつこいぐらい書いてあって、確かに重点で取り組むということで、これはいいんですけれども、これを5ページにめくったところに、今度は全く触れられていないというのに違和感を1つ感じています。グローバルなことに対応できるような子どもたちを教育で育てていくという具体が書いてあると思うんですけども、1つ目は授業改善のこと、2つ目は丹後学、3つ目はクラウド活用という辺りで、それがどうグローバルと結びつくのかが分かりにくいなと思いました。

<委員長>

改善の視点としてご発言いただいたと思いますので、再度ご検討をお願いできたらと思います。他にございますか。

それでは、とりあえずないようですので、1つ目のところには区切りを入れさせていただいて次に進めたいというように思います。

次は、学校教育関係のプロジェクト1から3までの括りの中で一括議論をしていきたいと思っておりますので、またご質問等がありましたら出していただくということでお願いしたいと思っております。

その前に、顧問からメモが回って参りました。この後用事があって出れないということで、伝えて欲しいというコメントがございましたので、読み上げますので必要に応じて付け加えをお願いをしたいと思います。

(顧問コメント)

I C Tに関連する部分について、分かりやすくまとまっていると思っております。

1点だけコメントします。1の①の冒頭にあります、教師が学習者に一斉に知識を伝えること自体は重要な活動で、それだけにならないようにしたいということが上手く盛り込めないだろうかと思っておりました。

<委員長>

伝えるということは、とにかく重要だということだったと思いますので紹介をしておきたいと思っております。また参考にしていただければと思います。

それでは、プロジェクトの1と2と3について、順番ひっくり返っても構いませんので、一括的にお気づきのところがありましたら、疑問も含めてお出し願いたいと思っております。いかがでしょうか。

<委員>

ここにデジタル化と教育の融合、I C Tの活用と出てきていますが、もう一つ時代を先に設定してもよいのかなと僕は個人的に思っていて、これからはI C Tというよりは、テクノロジーをいかに活用していけるかという、有効活用できるスキルを身に付けていくことが極めて重要なかなというふうに思っております。

なので、ICT化をしていくというのはまさに今の時代は当然大事なんですけど、5年先を見ると恐らく人工知能が人間のレベルに到達すると言われるようなところまで来て、2030年ぐらいにはもう実用レベルでAIがどんどん私たちの生活の中に入り込んでくるっていうことを見据えると、もう少しAIと向き合うというところも必要なんじゃないかなと個人的には思っていて、AIを使いこなせる教育というの、その教育を受けた人と受けていない人では大きく違ってくるんじゃないかなと思いますので、その辺りをICTで止めずにもう一步先のAI活用というところまでいくとよいなというふうには思っております。

<理事兼学校教育課長>

ご意見ありがとうございます。賜りましたご意見を、より反映できますように検討させていただきますと思います。

またこの3ページの教育振興計画の基本理念の背景のところに「AIの飛躍的進化等により」とありますように、当然我々としても対応が必要だという認識は持っているところでございますし、また、5ページになりますけれどもプロジェクト1の③のクラウド基盤を通じた学習というところの中程の行には「AI機能も活用しながら自ら学習を調整する力を育成します。」と書かせてはいただいておりますので、今のご意見を賜りましたので、より、そういったことを書き込めるようなことで考えたいと思っております。ありがとうございました。

<委員長>

ほかにございますか。

<委員>

先ほどの顧問のご指摘は私も賛成で、一斉に理解する教育の脱却という言葉は、一般の市民の方からは誤解を招くのかなと思いますので、同意見です。

それから、一番下の技術科の教員配置がなく云々というのは、私の勉強不足かも知れませんが、今それこそ弥栄中学校さんがリアルタイムで取り組まれていることなんですけども、これ例えばじゃあ4年後5年後も技術科だけなのか、拡充はされないのかということも踏まえて、ここの文言は整理されたほうがいいかなと思いました。

<理事兼学校教育課長>

ありがとうございます。教科を限定して書くのではなく、今後全体的なところを見据えてというようなことのご意見だったと思いますので、その辺りも踏まえながらの書きぶりに変えさせていただきたいと思っております。ありがとうございます。

<委員長>

よろしく願いいたします。ほかにありますか。

<委員>

プロジェクト3の、学校・地域・企業連携の推進というところで少しご質問させていただきたいと思います。

学社連携もしくは社学連携ということで、企業や地域との連携についてどのように企業等にアプローチされていく予定をされているのかということと、それから、学校の受け入れ体制がスムーズにいくのかと。私の過去の経験でいくとなかなか難しい点がたくさんあったということでありまして、それを具体化していくためには1年ないし2年、下手すれば3年ぐらい、具体的に動かそうと思うと期間がかかりますけれども、わずか5年の基本計画の中でそれを全て上手く回していくにはどのような方法を考えておられるのか、お聞かせください。

<教育理事兼総括指導主事>

ありがとうございます。学校・地域・企業連携の推進の1つ目の大事な点としましては、本市がどのような子どもたちを育てたいかということと、まずはそれを知っていただくということを第一に進めなければならないと考えております。

ですので、この冒頭に子どもたちに「自ら考える力や主体性を身に付けてほしい」との思いを子どもに関わる全ての関係者で共有し、というまずここが1つ目の進むべき道かなというふうに思っております。

次には③の探究コーディネーターを配置しておりますので、そこを軸にしながら、積極的に足を運び、理解をいただき、そして人材バンクを整え、各学校がそこのつながりを持っていけるようにという、今まではその学校が直接企業とという形でしたが、教育委員会に配置しております探究コーディネーターを1つ軸にすることで、一歩でも先に進めたらよいかというふうに考えているところです。

<委員>

プロジェクト3についてですけれども、その前に基本理念の目指す人材像というところで「世界を舞台に活躍することができる」という文言を入れていただいて大変ありがたいなというふうに思っております。

まず、プロジェクト3の①中高連携の促進についてです。中ほどの「10年間で培った学びを高等教育につなぐために」というこの高等教育というのは、大学等をイメージされた内容であるということによろしいのかというのが1つです。

それから2つ目です。「探究」をキーワードにした以下の4点についての連携ということで、中高連携という場を設定いただいたことは非常にありがたいなと思っておりますが、4つの部分「教員間の情報連携」これは何を意味するのか、「学び方の連携」これはどんなことをイメージしているのかという、4つの項目が少しイメージしづらいかなというふうに思っています。

それから3つ目です。「本市の特色を生かした専門系を普通科につなげていく」という、

ここの意味がよく分からないです。本市の特色を生かした専門系のコースというのは、高等学校にある専門系のコースのことでしょうか。中学校で専門的なコースがあってそれが高等学校の普通科につながるのか、この文言が少しイメージつきませんので、説明をいただけたらと思います。

とりあえずその3つをお願いします。

<理事兼学校教育課長>

3点ご質問いただきました。ありがとうございます。

1つ目の、10年間で培ったものが高等教育というようなこと書きぶりでございますけれども、我々の認識と違いますか、一般的に高等教育と言いますと当然大学でありますとかといったような分類になろうかというふうに思います。

そのあたりは10年間で培ったものが、当然高校の教育につながっていくことを期待しておるといふようなことでございますので、この辺は書き改めさせていただきたいというふうに思っております。

<教育理事兼総括指導主事>

ありがとうございます。連携の4点重点的にというところです。

「教員間の情報連携」というところは、先生方同士が出会って話せるような、そんな場をつくっていきたいなという思いで書かせてもらった1つ目です。

2つ目の「学び方の連携」としましては、子どもたちが協働的な学びというところで、すごくグループ学習であったり、1人で学んだりみんなで学んだり、学び方を選択するところを、小学校中学校の教育の中で培ってきたもの、小中の学び方を理解した上で、高校での学び方につなげていただけたらという思いで「学び方の連携」という部分を書かせていただきました。

「課題設定の連携」につきましては、特に探究というところをキーワードにしまして、小学校がどんな課題で探究をしているのか、中学校がどんな課題で探究してきたのかということを知った上で、高等学校での探究をつくっていただくことにより深く質の高いものになるのではないかなという思いで書かせてもらっています。

4つ目の「人材バンクの連携」は、こども園から様々な地域の方に関わって子どもたちが育ち、そして義務教育を終え高校に行きますので、どんな人たちと学びを深めて高等学校に上がっているのかを知っていただくためにも、今現在この京丹後市として人材バンクを整理していこうと思っておりますので、それを情報提供しながら、お互いが人材バンクを共有できればより広い地域とともに学ぶ子どもたちが育っていくのではないかなという願いも込めて、この4点とさせていただきますが、今このように私がたくさんの言葉を重ねないとなかなかご理解いただけないということでもありますので、もう少し、言葉を精査させていただいたほうが良いのかなというふうに、今ご意見をいただいて考えていたところです。ありがとうございます。

<委員>

今ご指摘があった、このコースについてはどうですかね。

この書きぶりだと、中学校に「グローバル人材育成系」というコースと「地域探究系」という2つのコースが4月から設置されるというふうに、大ハレーションが起きると思うのですが。校長会としては聞いてないんですけど。

<教育理事兼総括指導主事>

言葉足らずで申し訳ありません。本市が義務教育の中で、グローバル人材育成とそして探究というところを、大変重点として取り組んでいくというその先に、これは高等学校の普通科の特色として、こういったものをイメージしていただけるととてもよいなという、実現するかしないかまだ分からないですし、制度的な検討もまだまだ必要ですので、そういった部分で書かせてもらっています。

義務教育ではなく、高等学校に向けてというふうに思っていたところです。

<委員>

また整理をお願いします。

<委員長>

よろしく願いいたします。ほかにありますか。

<委員>

今皆さんが意見でおっしゃったように、パッと見て全体的にちょっと文字が多過ぎるなというのは正直なところ。その割に、委員から具体的にどのようにやっていくのかとか、文言の意味、これは何を意味するのかというような意見、それに対して事務局から「実現するかどうかわからないけれども」みたいなコメントがありましたので、この計画というのは、施策を計画的に進めるための基本計画というものだと思っていますので、内容はもう少し具体的に、箇条書きみたいなものでもよいのかなと思っていますが、例えばこれ概要版みたいなものができて、箇条書き的に何をやっていきますみたいなことが出てくるのか。

文字が多すぎて、内容が分かりにくいなと思います。その書きぶりも、例えば6ページプロジェクト2の最初の「普段の日常」というのは「日常」だけでいいんじゃないかな、ですとか、それでなくても多いのに、ちょっと文字が多いなというのを感じています。

あと、この後のプロジェクトにも続くと思うのですが、例えば古墳のところだと古墳の説明が長々とありますし、この計画のこの部分には一体何が書かれているのかっていうのが分かりにくいなっていうのが全体の感想です。

<委員長>

ありがとうございます。特にコメントありますか。

ないようですので、ほかにございますか。

<委員>

前回の会議でも出しましたが、この7ページ中高連携の促進という言葉で、やっぱり保幼小中一貫教育があつてのこの中高連携かなというふうに思いますので、ちょっとこの項建ての中で、例えば文章の中で一貫教育の成果を中高連携に生かすみたいな辺りで、少しその関係性を標題にも入れてもらったほうがいいかなと思います。「中高連携の促進」だけで項が上がってしまうと、そこだけかなというふうに思えるので、やはり一貫教育をベースにしてという辺りをもう少し加味していただけたらと思いました。

<委員長>

中高連携の促進のみならず、このところにも保幼小中連携が出てきたほうがよいのではないかというご指摘かなと思いますので、またご検討をお願いしたいと思います。

ほかにありますか。

<委員>

保護者の立場からお話させていただきます。私に分らないだけかも知れませんが、プロジェクト1の、「学び(遊び)のタクト(イニシアティブ)」、タクトとイニシアティブどちらも分らないっていうのが1つあります。

それから、プロジェクト3の、先ほどもあつた保幼小中高連携っていうところで、保育所、幼稚園から小学校に上がる時は、5歳児交流会とか、同じ学園内での交流があると思うのです。それが小学校になるとぴたっとなくなって、中学校の授業体験で初めて網野町なら網野町のほかの小学生に会うということをやっていると思います。なので、ICTをするのであれば、授業の中でも取り入れることで、先生同士も交流できて授業の進み具合も分かるし、子どもたちも中学校で初めて新しい友だちに会うということがなくなると思うので、何かその辺りもICTと、網野学園とか峰山学園の小学校同士の交流というのも入れていただけると、そこからまた中学校教育でも仲間ができ、さらに高校へとつながっていくのではないかと思うので、何かその辺りのことも何か含めて検討していただけたらありがたいなと思います。

<理事兼学校教育課長>

ご意見ありがとうございます。前段の、言葉が分かりにくい、これまでいただいております委員さんのご意見の中でも、通じてパッと見たときに分かりにくいでありますとか、文言的などころでありますとか、というようなところが散見されるということでございます。

全体通して、市民の方々により分かりやすいものにしていくということは当然必要でありますので、事務局で見直しを図るということをまず申し上げます。

続きまして、ICTの各学園内での活用というふうなお話がございました。これは是非

取り組んでいけますように、各学園内での検討のほうも、できる範囲で検討をさせていただきたいと思います。ご意見ありがとうございます。

<委員長>

少し時間も気になりますが、ほかにございますか。

<委員>

プロジェクト2の①安全・安心で多様な学びに対応できる教育環境の整備というところですが、これを読む限り「家庭から外へ出にくくなっている児童生徒へのアウトリーチ型の訪問」とか「ICTを用いた遠隔での学習支援」では、家に居ながら授業が受けられるというような認識で合っていますよね。となると、考え方としてはもう不登校はなくなるということですね。

この安全・安心というところでいうよりかは、そういう選択ができるというほうが、今の時代としては共感が得やすいかなと。どこまでいっても学校に来ることが善なのか、いや、学びの環境を自ら選ぶことができるんですよっていうところを推していこうとするのかによって、言葉が変わってくる。

安全・安心だと学校に来るというところが前提になってくるような気がするんですけど、いやもう本市では学び環境が選択できますというところを推進していくのであれば、安全・安心ではなく、選択という言葉になるのかなというふうに思っていました。その考え方次第でワードチョイスが変わってくるなと思ったので、またご検討いただければと思っています。

個人的には、選択できるほうがすごく画期的で、要は京丹後市にはもう不登校という概念がなくなりますっていう、すごいインパクトのある方針になるという思いを持っているので、僕は選択的なほうを進めていただきたいなと思っています。

<教育長>

ニュアンスとしては、完全な選択性というところは考えていませんが、今国の内容からしても不登校のところには多様な学びという形に置き換えた言葉で説明がされていますので、さりとて、学校も学校以外も全て選択というようなニュアンスではなくて、学校は当然、学校教育の主体とはしながらも、でも多様な学びにも対応していくというところを打ち出したいというようなところで、文言を付けているというつもりですので、伝わらないところがありましたらまた修正かけさせていただきますが、そういう趣旨でとらえているところでございます。

<委員長>

ありがとうございます。ほかにありましたら出してください。なければ次に進みたいと思います。

では、一応ここで切らせていただいて、プロジェクト4に移りたいと思いますので、ご

質問等ございましたらお出してください。

<委員>

プロジェクト4と5のところ、いわゆる都市拠点構想のことや、部活動地域移行について全く触れられていないなというのが正直な感想です。

公民館を解消するみたいのがもう具体的にイメージしているところと、触れていないところがある。例えば図書館も、いわゆる新設も含めて、ネットワークをつくるという構想を確か京丹後市が示されているというふうに思いますし、アートもいいんですけど音楽はないなと思いつつ、でもホールの構想も大分素案ができ上がってきていると聞いていますので、来年度からの計画ですので出せるものは盛り込んでもらえたらどうかなというふうに思いました。

<生涯学習課長>

ありがとうございます。特に③の図書館活動の項目で、当初の案では委員さんがおっしゃるような都市拠点構想の計画も含めて、それとの関連性も含めて案としては書いていたのですが、今その計画自体がどのように進んでいるのかというところで、担当課のほうで用地買収を積極的に進めているというところで、今後の見通しがまだできていないという中で修正をさせていただいて、このような形にさせていただいたという経過があります。

委員からのご意見も踏まえて、再度検討させていただきたいと思います。

<委員長>

よろしくお願いたします。ほかにありますか。

<委員>

プロジェクト4の①の高齢者大学、市民講座についての質問ですが、「働いている方も受講できるようZoom等のオンライン配信」というのがイメージが湧かなくて、現在やっておられる高齢者大学、いわゆる集まって講座を受けたり絵を書いたりとかする、それを高齢者だけじゃなくいろいろな年代の方も体験できるようにZoomでオンライン配信するという意味ですか。それとも、市で1つの講座等を開いて、Zoomで各地域公民館に配信するという意味なのでしょうか。

<生涯学習課長>

ありがとうございます。委員がおっしゃるように、拠点として会場は設けて、そこで講師の方から講話をしていただくというような形なんですけれども、それをZoomで、各地域公民館をハブ会場にしまして、そこでも見られるようにしたりですか、会場に来られない方を対象にZoomで各家庭で見られるようなやり方だったり、そういったことを進めているということです。

<委員長>

よろしいでしょうか。ほかにありますか。

<委員>

プロジェクト4の②地区公民館を発展的に解消し、新コミュ組織に移行というところですが、文言の部分、地区公民館というのは何を意味するのか、地域公民館というのは何を意味するのかというのがちょっとよく分からないので、今使っている公民館がなくなっちゃうのかとかですね、その辺りがこの文言を読んだだけでは何を言っているのかよく分からないと思うのですが。

<生涯学習課長>

ありがとうございます。4の②の中で出てくる地区公民館と地域公民館の違いについてのご質問だと思います。

地区公民館というのが昭和62年度以降に自治公民館として制定されたということで、各地区で公民館活動を行っていただく組織で、町ごとに町域の公民館連絡協議会というのを組織しまして、その傘下に各地区の公民館活動をされている地区公民館が所属しているということです。

一方で、地域公民館というのは、条例で策定しております行政の組織でございます、各6町に地域公民館というのが、組織されております。行政の組織が地域公民館です。そこに各地域公民館長が行政の職員として配置されております。

地区公民館というのは、地域の方々が公民館活動を行っていただくための、自治公民館ということになります。

<委員長>

簡単に言いましたら、市民局にある組織が地域公民館の組織ですね。

各地区にあるのが地区公民館の分別だと思います。

関連して、②の今のところの地区公民館を発展的解消しというふうに変えていただいているのですが、文面の方の4行目のところが地域公民館は廃止されという言葉が残ってしまして、これは意図的に残されたのか、整合がしていないということなのか、その辺またご検討いただく必要があるかなと思います。

<生涯学習課長>

ありがとうございます。検討させていただきます。

<委員長>

よろしくお願いたします。それではプロジェクト5にいきたいと思います。

なければ、最後にプロジェクト6に入りたいと思います。よろしくお願いたします。

<委員>

6の②で、ワールドマスターズゲームズ2027の取組を冠に入れていく必要があるのか、というところがちょっとありまして、スポーツ観光のまちづくりを目指すのであれば、これはあくまでも1つの手段としての、ワールドマスターズゲームズ以外でも多分いろいろなスポーツ観光につなげられるコンテンツはあると思いますので、これだと2027年に開催されたらもう終わりという感じになりますから、あくまでも通過点の中でこのワールドマスターズゲームズはあるし、こんなのもあるし、あんなのもあるしという1つのコンテンツととらえるわけで、スポーツ観光のまちづくりを冠にしたほうがよいのではないかと思いますので、よろしくをお願いします。

あと、どこで言ってよいか分からなかったのでここで話しますが、先ほど委員からありました部活動の地域移行はすごく大事な検討課題ではないかと思っていますので、しっかりと検討をしていただきたいと思います。

<委員長>

部活動の地域移行について何かコメントありますか。

<理事兼学校教育課長>

ご意見ありがとうございます。いろいろなパワーワードが抜けているのではないかと一連のご指摘かというふうに感じております。

部活動地域移行につきましても、入れ方はこちらのほうでご提案させていただきたいと思いますので、検討を進めさせていただきます。

<委員>

その地域移行については、非常に難しい会議をずっと続けています。

今後、未知数のところもあるんですけど、無難な辺りは少し触れておいていただいたほうがよいかなと思います。どんな形にせよ、子どもたちの健康、体、スポーツ、ひいてはこの10ページで紐付けると、生涯好きなこと、スポーツをすることにつながっていくことは間違いない。そのこれから5年、10年が過渡期にはなろうかと思っていますので、どういう展開になるか分かりませんが、令和7年、8年、9年と、この部活動地域移行の件はメインにくるかなというふうに思いますので、ぼやっとするかも知れませんが、この方向性だけは盛り込んでいただけたらと思います。

所轄が学校教育課なのか生涯学習課なのかという大人の都合は別として、方向性だけは示していただけたらと思います。

<委員>

学校の部活動の関係については、プロジェクト2の③の先生たちの働き方改革にも、主目的となっていますので、どこで謳われるかは別にして、プロジェクトの2の③の辺りでも触れるべき観点かなというふうには思っています。

それと、プロジェクト6の②のスポーツによる観光のまちづくりは、全面的に変えられたほうが良いと思います。

他の委員さんの発言にもありましたが、これはWMG2027 関西の内容だけでもって構成されておりますので、市のスポーツ推進とは非常にかけ離れた書き方になっているというふうに思います。

それともう1点、スポーツ振興といいますか、スポーツ観光のまちづくりをしようと考えておられるなら、施設面の充実ということが非常に大事だというふうに、私はここに出てきた職責の立場も含めて思っております。施設の充実なしにスポーツ観光なんてことは普通ではあり得ない。屋外の、歩いたり走ったりするトレーニングランなんかでもやっぱりそれなりの整備をしていかないと不可能なので、だからその辺については一切触れてないということは、財政的な問題があるかも分かりませんが、それをさておいて目標として掲げるべきではないかなと思っておりますので、その点も含めてよろしくお願いします。

<委員長>

よろしいでしょうか。ほかにございますか。

ないようですので、とりあえず、全て網羅しながら聞かさせていただいたつもりですが、まだ言い残し、欠落している部分等がありましたら、最後にお出しただけたらと思います。

<委員>

今日いろいろ意見交換していただいているのは振興計画ということですが、そうなら具体的な施策とする実施計画、具体的な方策、これについてはこういう格好でこういうことをやりますよ、ああいうことをやりますよという提案なり、計画が全然見えてこないということは、概論だけで済ますというのか、最終年、5年経ったときに、総括をどういう格好でされるのかということになってくると思います。

あれについてはできました。これについてはまだまだできていませんよ。できない部分については次の計画の中で予定をしましょう。いや、もうやめましょう。という話になると思いますが、その辺はどうでしょうか。

<教育総務課長>

振興計画につきまして、その下に実施計画といったものをつくっていく予定はないところでは。

一定、これに基づきながら予算を付けたりというようなことになってこようかというふうに思っております。

この計画の評価ということでございますが、毎年、教育委員会事務事業の評価を行っておりますので、この項目に基づいて、どういったことができているかっていうことは、教育委員会の中で評価していくというような、評価ということでは考えているところでございます。

<委員長>

よろしいですか。ほかにございますか。

<顧問>

今出されたご意見は私も少し感じていたところで、恐らく今回教育振興計画の性格というものを相当見直しをされたのではないかなという印象を持っています。現行のものとは比べますと大分様子が変わっているところがあって、相当議論されたなというふうなことは感じています。

パッと見たときに文字が多いというご意見もありましたし、具体的に何をするかということあまり書かない形でされているということも特徴かなというふうなことは思っています。それが良いか悪いかということよりも、振興計画をどういう性格のものとして策定するかということ、もう少し分かりやすく説明したほうがよいかというふうなことは感じています。

計画策定の趣旨の最後の2行、なお書きで「不易なものとして特筆していないものについても、従前どおり教育委員会として取り組む」と書かれていますので、重要なこと全てをここに盛り込んでいるわけではないということだとは思いますが、恐らくプロジェクトという表現をされたところにもそれが表れていると思いますので、今後こういったことに新しく取り組んでやっていきたいというふうな、そういうメッセージが非常に感じられますし、またそういうものではないかなというふうな印象を持って全体を拝見していたところです。

私はそれはとてもよいことではないかなと思うんですけど、その辺の趣旨が十分に伝わらないと、恐らく実際にじゃあ何をやるんだろうかっていうふうな、そんな印象を関係の方々伝えてしまうところがあるかなと思いますので、そこをもうちょっと説明のところ工夫をされる必要があるかなと思った次第です。

あと、恐らく今回の特徴としては、中高連携をここに書かれるというのは私も驚いたんですけども、多分京丹後市だけではできないことをここに書き込んでやりたいということ、これをアピールしていくということは、それはすごく新しい試みで、よいことだと思っはいますし、そういった性格でもあると思いますし、あと就学前教育も市長部局と連携をしないといけないことなので、教育委員会だけで取り組むものではない、そういったものも盛り込んでいくというふうなことが、今回特徴として出ていると思いますので、そういう意味で具体的に書きにくいところもあるし、書けないところで方向性を出したいという、そんな振興計画としてあるんだろうなというふうなことを感じながら聞いておりました。

ですので、そういう振興計画の趣旨というか性格というものも、こういうものだということ、もう少し分かりやすく伝えるような工夫があってもよいかということを感じたということになります。

あと、こども基本法が制定されていますので、その趣旨をしっかりと踏まえていますよと。つまり子どもとのとらえ方といいますか、子どもの見方、或いは子どもと大人の関係とい

うことをしっかりと改めて考え直すというきっかけに子ども基本法はなっているはずですので、そういうこともしっかり踏まえながら取り組むということは、どこかに表現があってもよいかなどということも感じておりました。

そういうものが全体の計画それぞれについて表れている、そんなものになったらよいかなど思いながら見ておりました。

抽象的なところですけども、私が感じたことは以上になります。

<委員長>

ありがとうございました。

<教育長>

今顧問からもありましたし、委員の意見の中にも、計画策定の趣旨というところについて、もう少し具体的なところ、これまでの計画と大きく変わった計画としておりますので、その辺りを盛り込んでいけるように、分かりやすいところで工夫をしていきたいというふうに思います。

<委員長>

ありがとうございました。ほかにありますか。

ないようですので、とりあえず議論につきましては終えたいと思います。

大変積極的にたくさんのご意見を出していただきまして、事務局のほうに大変な宿題がいつってしまったかなと思います。表現の問題から、新たな視点を付け加えること、全体の整合性、もっと具体的な実施計画のありようみたいなところも出していただきましたので、全て検討していただきながら、今日の課題をまとめて、さらにもう一歩前に進むような内容にさせていただくというようなことが、今後の課題として明らかになったのではないかなと思います。

計画的には、この後は1月予定ということで、第4回目を計画していただいておりますが、まとめる段階で、12月に再度集まる必要があるかも知れないという含みを持ちつつ、事務局で今日出された課題等についてまとめていただいて、さらに一歩進めるための整理をしていただくというような確認でよろしいでしょうか。

それでは事務局に大変ご負担をおかけしますが、今日の内容を生かしていただいて、次の一歩が進みますようにさらにまとめをつくっていただいて、今後の日程も含めて検討をお願いしたいということで、まとめに変えたいと思います。

最後、事務局から何かございますか。

4. その他

<教育総務課長>

その他というところでございます。

先ほど委員長からもございましたが、本日たくさんご意見もいただいております。また

事務局のほうで、いただいたご意見も計画案として整理をさせていただきたいというふうに思っているところです。

次回の会議でございますが、12月、必要に応じてというところで予定をしておりましたが、たくさんご意見もいただいた中でございます。会議を12月24日の午後にさせていただけたらというふうに考えているところでございます。以前にスケジュールもお聞かせいただいた中で、この日で入れさせていただけたらというところで考えているところでございます。

内容の詳細については、後日お知らせもさせていただきたいと思いますが、一応こういった形であればと考えているところでございます。

<委員長>

具体的な日程が12月24日と案が出されましたので、ご都合があらうかと思えますけども、そういう計画を考えているということでもありますので、ご予約の方に入れていただくということでもよろしくお願いをしたいと思えます。時間は何時でしょうか。

<教育総務課長>

午後ということにしておりますので、1時半頃ということでも予定していただけたらと思えます。

<委員長>

それではとりあえず12月24日1時半からということで、また正式なご案内はいただけると思えます。

それでは、大変長時間にわたってご協議いただきまして、ありがとうございました。

最後に副委員長さんからご挨拶をいただきます。

5. 閉会あいさつ

<副委員長>

本日3回目ということで本当に長時間、具体的ないろいろな意見を出していただいて、よりよい計画につながれたらと思えます。

私も皆さんのいろいろな指摘を聞いていて、ああそうだな、そうだなと思いながら聞かせてもらう中で、一般の人でも分かりやすい言葉っていうのも必要なと思って、注意書きが下にあたりとか、コメントを入れたりとか、そういう辺りも考えてもらえると、より身近なものになるかなと思えました。

このよい天気、足元のよい中、お忙しい中、長い時間ありがとうございました。

今後ともこの計画がよりよくなるように、ご協力よろしくお願い致します。

今日は、気をつけてお帰りください。ありがとうございました。

<教育総務課長>

それでは長時間にわたりご協議いただきありがとうございました。
本日はどうもありがとうございました。